

介護分野におけるアンケート調査結果

平成30年11月

熊本県地域訓練協議会

(事務局：熊本労働局職業安定部訓練室)

【目的】

介護分野の人材確保や職場定着については、関係機関と連携して取り組んでいるものの、事業所からはなかなか人材確保や職場定着が進まないとの声がある。また、介護職を離職された方を見ると資格・経験があるものの再就職では希望しないとの声もある。

このことから、これらの原因を分析し、介護事業所の雇用管理指導に活用することを目的として、平成28年度中に介護分野のハロートレーニング（公的職業訓練）を受講し、受講中若しくは修了後に介護分野に就職した者に対して「介護分野へ就職した方に対するアンケート」を実施した。

【調査期間】

平成30年6月1日から平成30年6月30日まで

【対象者】

190名の者にアンケートを郵送し、80名の者から回答があった（回収率42.1%）。

【回答結果】

回答結果は次のとおりである。

問1 性別、年齢

性別では、男性30名（37.5%）、女性50名（62.5%）。年齢別では、10～20代（12.5%）、30～40代（55.0%）、50代以上（32.5%）。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①男性	7	15	8	30	37.5%
②女性	3	29	18	50	62.5%
回答計	10	44	26	80	

問2 受講した訓練の種別

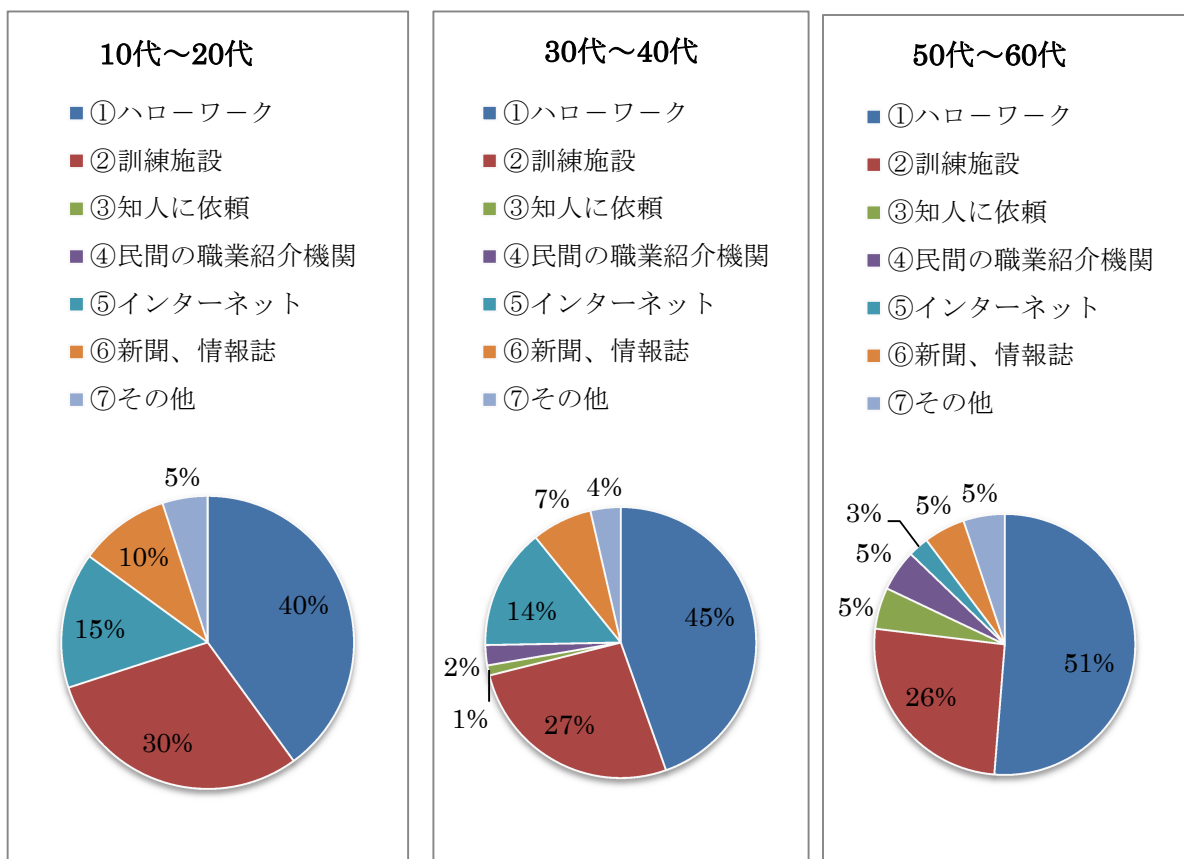
	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①公共職業訓練（3か月）	2	8	14	24	30.0%
②公共職業訓練（7か月）	5	25	8	38	47.5%
③公共職業訓練（①②以外）	2	5	4	11	13.8%
④求職者支援訓練（6か月）	1	6	-	7	8.8%
回答計	10	44	26	80	

問3 訓練受講中の就職活動（複数回答）

訓練受講中の求職活動は、ハローワークによるもの 81.3%、訓練施設によるもの 47.5%、インターネットの利用 20.0%の順となっている。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	割合
①ハローワーク	8	37	20	81.3%
②訓練施設	6	22	10	47.5%
③知人に依頼	-	1	2	3.8%
④民間の職業紹介機関	-	2	2	5.0%
⑤インターネット	3	12	1	20.0%
⑥新聞、情報誌	2	6	2	12.5%
⑦その他	1	3	2	7.5%

(年令別)

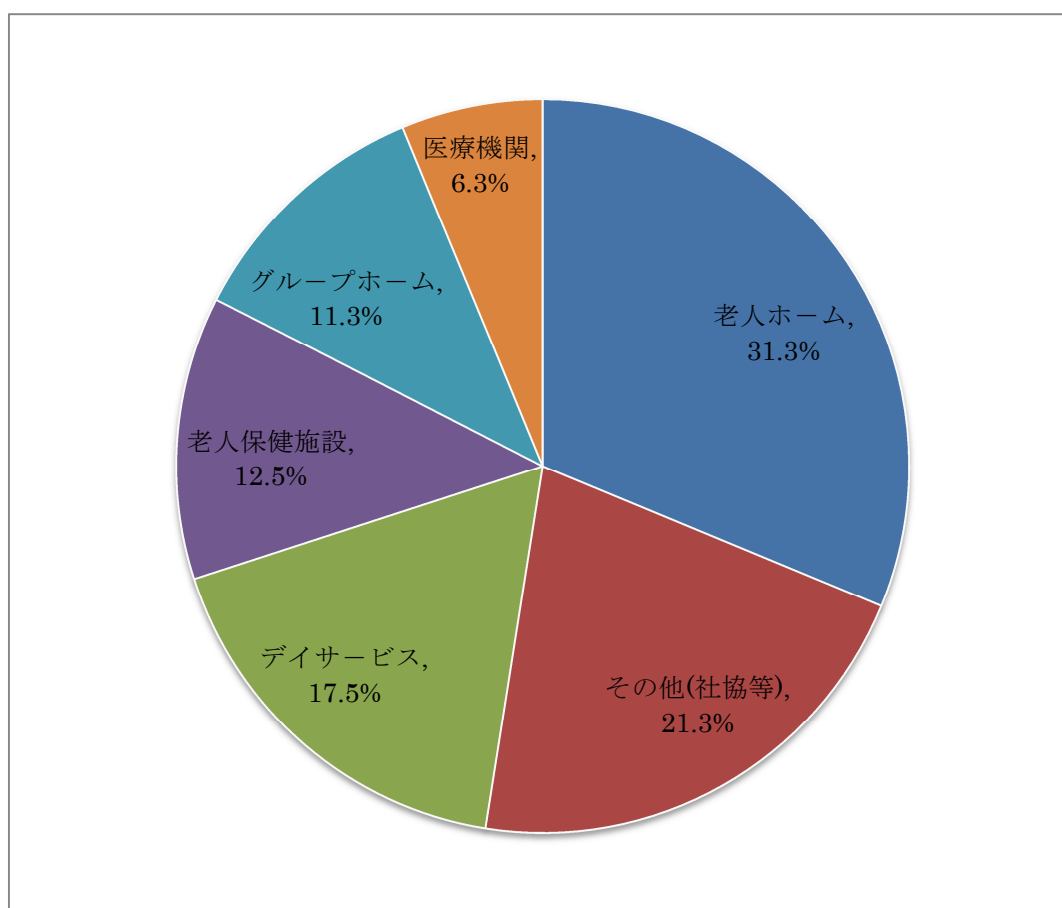


問4 訓練(中)修了後に就職した施設

訓練受講中又は訓練修了後の就職先について、老人ホームがもっとも多く、次にデイサービス、老人保健施設の順となっている。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①医療機関	－	4	1	5	6.3%
②老人ホーム	6	12	7	25	31.3%
③老人保健施設	2	4	4	10	12.5%
④グループホーム	－	7	2	9	11.3%
⑤デイサービス	－	9	5	14	17.5%
⑥その他(社協等)	2	9	6	17	21.3%
回答計	10	45	25	80	

就職した施設



問5 就職後のその後の状況

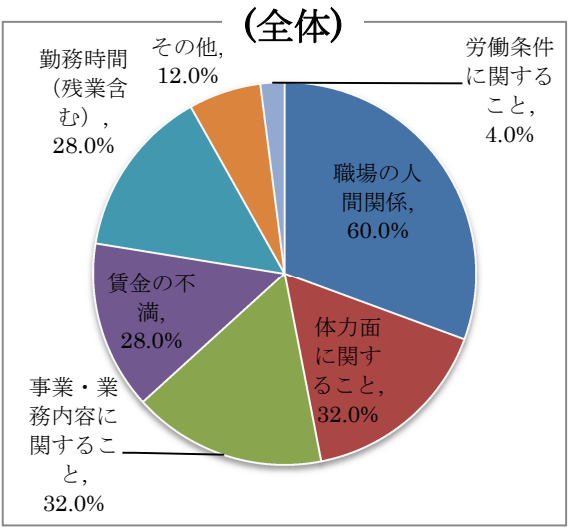
訓練受講中又は訓練修了後に就職した先での現在の状況を聞いたところ、就業中が約7割、離職が約3割となっており、2年以内に3人に1人が離職している。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
就業中	8	32	15	55	68.8%
離職した	2	12	11	25	31.3%
回答計	10	44	26	80	

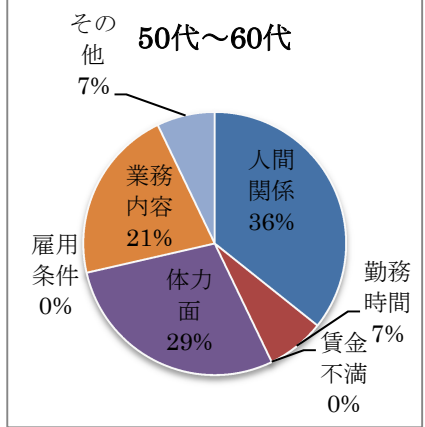
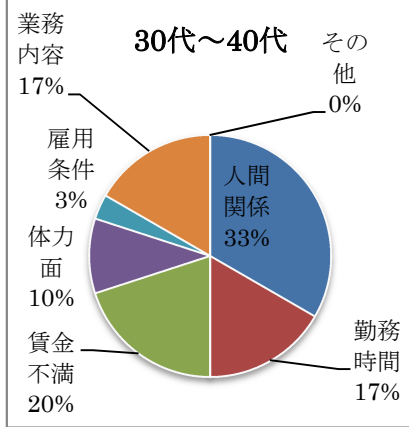
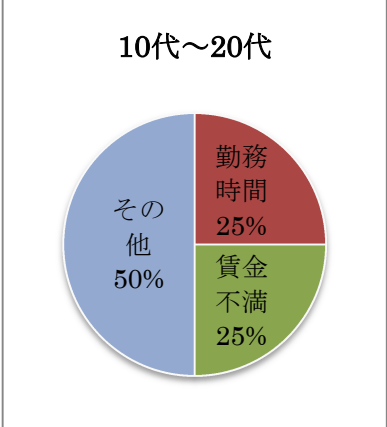
問6 離職した理由（複数回答）

離職した理由を聞いたところ、職場での人間関係が全体の60.0%、次が体力面に関すること、事業・業務内容に関すること（業務方針含む）、次に残業を含む勤務時間に関するもの、賃金への不満、の順となった。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①職場の人間関係		10	5	15	60.0%
②勤務時間（残業含む）	1	5	1	7	28.0%
③賃金への不満	1	6		7	28.0%
④体力面に関すること		3	5	8	32.0%
⑤労働条件に関すること		1		1	4.0%
⑥事業・業務内容に関すること		5	3	8	32.0%
⑦その他	2		1	3	12.0%



(年令別)



問7 再就職先について

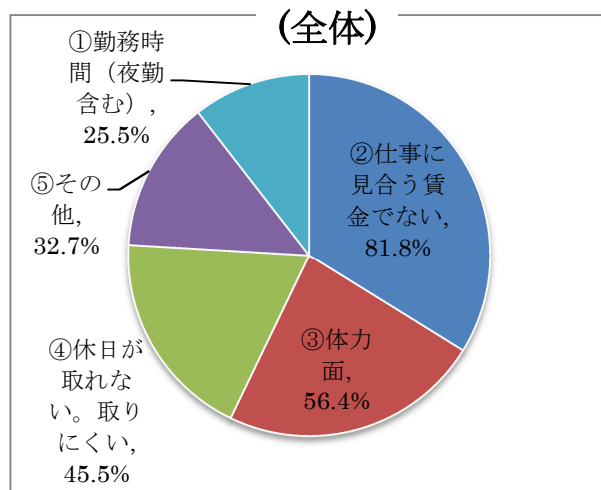
離職した後の再就職先について、介護分野への就職か介護分野以外への就職かについて聞いたところ、介護分野への就職が10名(40.0%)、介護分野以外への就職が10名(40.0%)となった。現在求職中の10名のうち7名は介護分野以外への就職を希望している。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①介護分野に就職した	1	3	6	10	40.0%
②介護分野以外に就職した	1	7	2	10	40.0%
③求職活動中（介護分野）				-	
④求職活動中（介護分野以外）		2	1	3	12.0%
⑤今は仕事を探していない			2	2	8.0%
回答計	2	12	11	25	

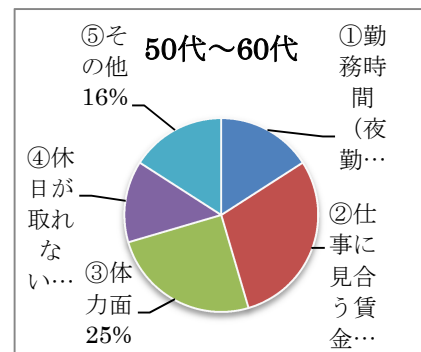
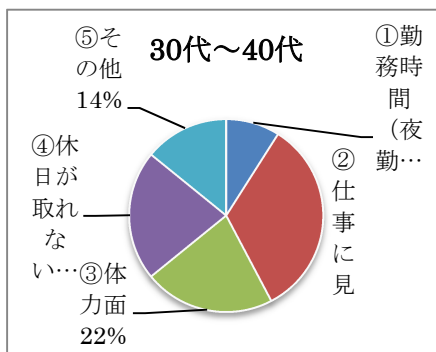
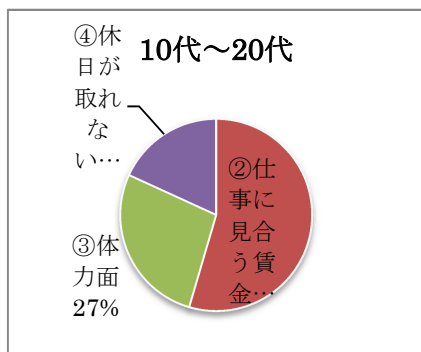
問8 介護分野を退職した後、再就職で介護分野を希望しない理由（複数回答）

再就職で介護分野を希望しない理由として最も多かったのが賃金に対する不満で仕事に見合う賃金になっていないというものだった。次に本人の体力面に関する事、次が休暇の取得に関するものであった。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①勤務時間（夜勤含む）	-	7	7	14	25.5%
②仕事に見合う賃金でない	6	26	13	45	81.8%
③体力面	3	17	11	31	56.4%
④休日が取れない。取りにくい	2	17	6	25	45.5%
⑤その他	-	11	7	18	32.7%



(年令別)



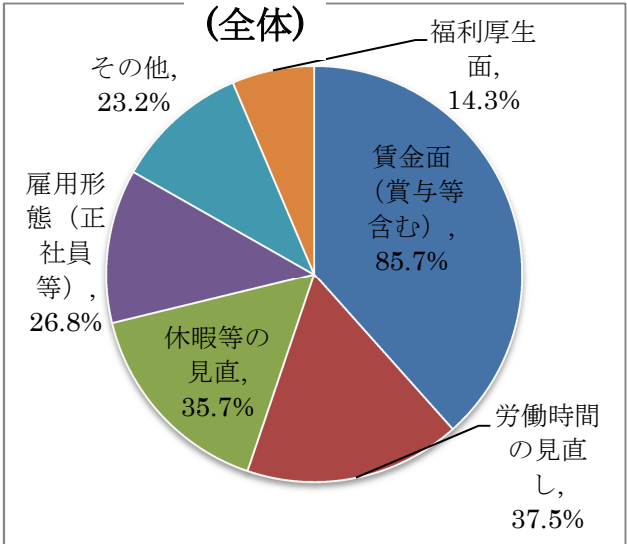
【自由意見】

1. 事業所内の異動が暗黙の了解と言った雰囲気で行われる。例えばデイサービスで働きたいのに老人ホームの方への異動となり仕事の内容が違う。
2. 夜勤時の人員体制が少なすぎて事故リスクが大きく、責任が重い、それらに見合う賃金でない。残業代が一般企業のようにつかない。
3. やりがいのある職種であるが給与水準が低い。
4. 基本給が低く、月の給与を考えると安く思える。
5. ライフワークバランスが他の分野に比べても取り難い。
6. 現在、就業中であるがいつまで続くのか不安がある。それは、体力面や一生懸命対応しているのに、クレームばかり言ってくる家族がいます。メンタル面がもたない。【就業中】
7. 体力的、精神的にも辛い、それに対する給料が安すぎる。人手不足でシフトの融通がきかない等、介護をして行く上で魅力的でない。知人や友達など、職場に誘えない。
8. 腰痛が出て体力的に厳しい。

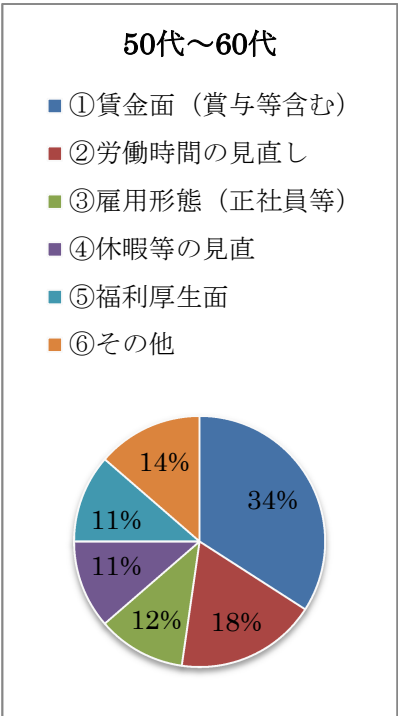
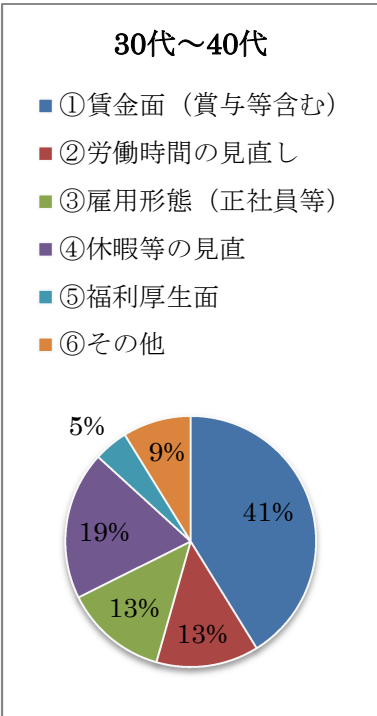
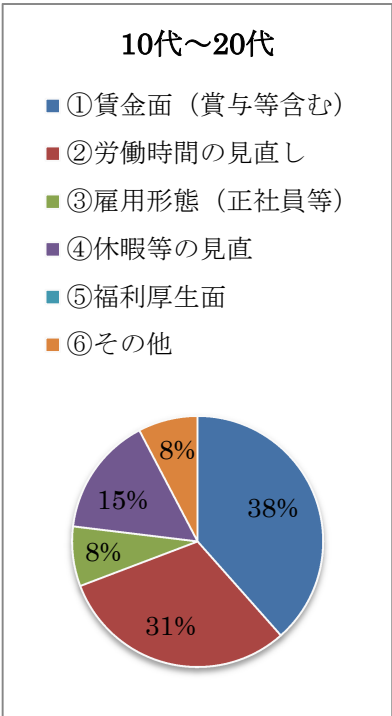
問9 介護分野の職場改善に必要なもの（複数回答）

職場改善に必要なものは、問8「再就職で介護分野を希望しない理由」を反映した回答となっている。

	10代～20代	30代～40代	50代～60代	計	割合
①賃金面（賞与等含む）	5	28	15	48	85.7%
②労働時間の見直し	4	9	8	21	37.5%
③雇用形態（正社員等）	1	9	5	15	26.8%
④休暇等の見直し	2	13	5	20	35.7%
⑤福利厚生面	-	3	5	8	14.3%
⑥その他	1	6	6	13	23.2%



(年令別)



【自由意見】

1. 賃金が介護業界全体で安い。昇給もない、人を紹介してほしいと会社から言われるが賃金が安いので、人を勧誘できない。
2. 給料の底上げを行うべき。また、処遇改善手当は、介護職に対し国から直接給付を行うか、施設に対し必ず介護職に給付することを義務化すべきである。
3. 国は介護職に就く人が増えるように処遇改善を1万円増やしたが、その使い道は事業所に任せており、実際に介護職の給与に反映されている事業所は少ない、日勤とはいえ、手取り13万位では割に合わない仕事です。
4. 男性職員を多く雇用する。
5. 介護機器導入は賛成だが、国がもつと施設を補助していただきたい。介護職の質の向上も大事であるが、賃金面で納得出来る金額を。是非、介護の仕事に関わって良かった、一生続けたいとみんな思えるように協力をお願いします。
6. パートで働いているが、有休を求めてもくれない。負担が重すぎて、ストレス。体力面でも不安しかない。休憩所もなく、トイレも利用者と一緒に使用している。
7. 新人を育成するシステムや時間がなく、全くノウハウがつかめず悩む人の存在も気にしていられない、介護の仕事以前に人間関係に限界を感じて辞める人も周りには多い。
8. 介護業界の人材不足問題は、企業だけでは限界がある。地域の方にも、支援サポーターとして学習していただく機会をもつと増やす必要がある。
9. 介護サポーター（認知症サポーター等）を養成して、近所の在宅のお年寄り宅での話し相手、洗濯の手伝い、部屋の片づけ等、ヘルパーさんがされていることの簡単なものを時給単価を安めに設定し、実施したらどうか。